

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS × KANDA

ゴール12 つくる責任つかう責任

12 つくる責任
つかう責任



これまで世界は、生活をより豊かなものにするため発展を続けてきました。その反面、大量生産・大量消費による「無駄」を生み出し、地球に大きな負担がかかっているのも事実です。

私たちが生きていくうえで不可欠な資源には限りがあります。しかし、1970年代以降、地球が作り出せる資源の量より、人間が消費する資源の量が多い状態が続いており、今の生活を維持するには、地球がひとつでは足りないのが現状です。つまり、今の暮らしは、未来に残すべき資源を切り崩して使うことで成り立っているのです。私たちには、この現状を理解し、持続可能な生産・消費行動を確立させ、次世代に十分な資源やエネルギーを残す責任があります。

私たちにできること

大量生産・大量消費が問題となっているものの一つに食品が挙げられます。日本の食品ロスのうち約半数は家庭から出るとされており、食べきれない分だけを買うなど、個人の対策が重要といえます。

また、3R（※）に取り組むこともその一つです。マイバックを使う、資源回収に協力するなど持続可能な地球環境を次世代に残すために小さなことから取り組みましょう。

3Rとは…？

リデュース (Reduce)、リユース (Reuse)、リサイクル (Recycle) の3つのRの総称です。

[Reduce] ムダなごみを減らす

[Reuse] 一度使ったものでも繰り返し使う

[Recycle] 使い終わったものをもう一度資源に生まれ変わらせる

苧田町の取り組み

町では現在、家庭ごみの減量などを目的に、公共施設に資源回収ボックスを設置していますが、1人1日当たりのごみ排出量は全国平均を約80g上回っています。そこで、例えば、古紙回収ボックスを活用して、1人1日当たり牛乳パック3つ分程度（約90g）の紙ごみを「燃やせるごみ」ではなく「古紙回収ボックス」に出せば、町のごみ排出量は、全国平均を下回ることができます。町の燃やせるごみの約23%は、資源化できる紙ごみ（※）です。皆様のご協力をお願いします。古紙や古着、筒形乾電池など、回収する資源によってボックスの設置場所や回収方法が異なります。詳しくは苧田町HPをご覧ください。

※資源化できる紙ごみ／新聞、雑誌、段ボール、「紙製容器包装」のリサイクルマークが付いた雑紙類（菓子箱、ティッシュの箱など）



町内の取り組み

戸早学園と、白川小学校1・2年生が白川広域営農組合と協働で、芋の植え付けを行いました。営農組合の皆さんに植え方を教わりながら植え付けをする中で、食への感謝の気持ちを育み、地産地消への理解を深める有意義な一日になりました。秋にはみんなで芋掘りを行うなど、今後も様々な農業体験を通じ、SDGsの達成に繋がります。

